

非行少年の立ち直り支援ボランティアに参加する学生の参加動機と意義

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
荒木 沙理奈

本研究では、非行少年の立ち直り支援ボランティアに参加している学生たちが活動を始めた動機や活動に期待していたものは何だったのか、活動を継続する理由は何なのか、活動に意義を感じ継続していくプロセスを明らかにすることを目的として、ボランティア活動に参加している学生 3 名及びその経験をもつ社会人 2 名の計 5 名を対象にインタビュー調査を行なった。

その結果、学生たちは将来の職業選択を含めた自分自身の関心から活動を選択し、非行少年について知りたい、臨床経験を得たいという動機で活動を始めていることがわかった。活動から得られた意義は、非行少年に関する情報を得られること、彼らとの関わりが臨床体験となること、活動に参加している専門職者との関わりによって将来の職業選択に関する具体的なイメージを持てること、学生との関わりによって居場所感や仲間意識を持てることなどであった。また、活動を続けることで得られた意義が多くなったり深まったりすることによって活動に対しやりがいを感じ、それが活動を継続させる要因となっていくという循環的なプロセスがあることが示された。

よって、ボランティアに関心を持っている学生たちには、非行少年だけではなく学生たちや専門職者とも関わることができさまざまな意義が得られること、進学や職業選択を考えるにあたって、その判断材料となるような経験となることを知らせる必要があると考えられる。